

主 文

本件特別抗告を棄却する。

理 由

所論一は判例違反をいうけれども、論旨引用の判例は本件に適切でなく、原決定が大審院・昭和一二年（れ）第一一五三号、同年十一月十九日三刑判・集一六巻一五一三頁に則り、原決定の確定した事実関係の下では、本件につき、公然性を欠くものとしたのは相当であつて、論旨は採用し難い。

同二は憲法違反をいうが、その実質は単なる法令違反の主張に帰するのであつて、特別抗告適法の理由とならない。

よつて、刑訴四三四条、四二六条一項に則り、裁判官全員一致の意見で主文のよ
うに決定する。

昭和三四年二月一九日

最高裁判所第一小法廷

裁判長裁判官	下	飯	坂	潤	夫
裁判官	斎	藤	悠	輔	
裁判官	入	江	俊	郎	
裁判官	高	木	常	七	